

〈研究主題〉 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり  
～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて（2年次／2年計画）～

今年度は、教師が児童生徒の学びを見取り、見取ったそれぞれの解釈を共有し、「授業づくりのポイント」を基にしながら、チームで主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組んでいます。今回は、公開研究会の、中学部提示授業と協議について紹介します。

中学部 1年 生活単元学習 「潟上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう～」

授業について

この単元では、生徒たちが学校の所在地である「追分地区」のことを知り、地域とのつながりを深めることを目的として、飲食店への「取材」を行っている。生徒たちは取材対象となる店舗を替えながら、「取材準備」「取材」「編集」の3つの活動を繰り返し行いグルメマップの制作を行ってきた。提示授業では前時の「取材（ケーキ屋）」で経験したことや知り得たことを思い出し、自分の考えや気持ちを表現しながら「編集」する活動を行った。

抽出生徒 D について

- ・失敗することを恐れて活動に消極的な様子が見られる
- ・自分の気持ちを上手く言葉にできないことが多く、気持ちや考えを問われると「分からない」と表現することが多い



本単元における生徒Dの「主体的に学びに向かう姿」  
自分の考えを表現する言葉を探し、  
相手に伝えようとする姿

授業研究会から

授業者が授業場面で気になった抽出生徒の言動を「協議の視点」として設定。この視点に沿って青色の付箋紙に「子どもの言動」、ピンク色の付箋紙に「解釈」を記入しました。黄色色の付箋紙には、授業改善につながる意見やアイデアを記入しました。協議を行い、「次につながるキーワード」をまとめました。

協議の視点

- ・Dが意見を出せず「迷う」「A君助けて」「思いつかない」とつぶやいた（話し合い前半）
- ・Dが食べていないケーキについてAから「見た目では何かある？」と問われ「チョコレートの粉末がのっている」と答えた（話し合い後半）

話し合いの前半と後半で、Dの言動の背景にある気持ちにどのような変化があっただろうか

「アップルパイの見た目は？」と問われ「思いつかない」と答える

付箋紙ボードに残している項目は「見た目」ではなく「食べる前」だったので、同一のことと思わなかったのでは？

「A君助けて…」 「分からなくて」とつぶやく

これまでの学習の中でAへの安心感が生まれる。分からないときに聞くことができる信頼関係が構築されたか？

ティラミスについて「見た目なら！」 「上にチョコレートの粉末」と答える

本時の活動の中でだんだん見通しがもて、発言できるようになったのでは？

授業改善案

話し合いを生徒同士に委ねる場面を増やす

タブレット端末を使って情報を得ながら「編集」する場面の設定

食リボの「付箋紙ボード」を操作しながら活動する場面の設定

付箋紙を類似しているものでまとめる活動の設定

## 「次につながるキーワード」

- 安心できるペアの継続
- 意見交換のレベルアップ、繰り返し
- その場での適切な情報量
- 主体的なやり取りを引き出す学習の場の工夫
- 操作しながら相談できる手立て

## 【指導助言】 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 高橋 亜希子 氏

### ○授業全体について

本時の主眼は「おすすめメニューの魅力を伝える言葉を考える」であった。Dの学びの過程に着目し、取材に関する言葉を思い出し、他者に伝えようとする姿を大切にしたい。「グループでのやり取りを促すための支援」「学びの過程や姿勢を重視して評価する」ことに焦点を当てさらに授業改善を進めてほしい。生活単元学習では、D本人とDが関わる生徒が共に成長することを目指す。学級全体の実態を見直し、具体的な支援の方法を検討する必要がある。本時の授業では、DとAの関わりがどのように深まったか、意図的な話し合いの場の設定が効果的であったかを振り返る必要がある。

単元の終了が近付いてきた。生徒たちの変容を具体的に把握する必要がある。「グルメマップの完成」に向けた活動を通じて、期待する「主体的に学びに向かう姿」の成果を明確化することが重要。生活単元学習での取組と各教科の学びの関連性を再確認し、指導計画の整合性を高めていくことを期待する。

### ○抽出生徒について

事前研究会では、Dは発言へのためらいが少なくなっている一方で、思いをどう表現するかに迷う様子があった。今回の授業では、経験と言葉を結び付ける力が成長し、考えや気持ちを自分なりに表現する姿が多く見られた。(事前研究会から今日までの)1か月半で、自ら意見を伝えたり、分からないことをAに質問したり、助けを求めたりする姿が見られた。この変化は授業改善の成果といえる。Dが語彙を増やすだけでなく、Aとの対話を通じて、他者と気持ちをやり取りする楽しさを感じてほしい。

### ○今年度の研究について

生徒の姿を多面的に捉え、その経験や感情に基づいた授業づくりを意識する必要がある。単元の目標を再確認し、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を評価する必要がある。今回の授業と研究全体を通じて、生徒たちが「主体的に学びに向かう姿」のための基盤が築かれる中で、その学びの過程を大切に、生徒一人一人の成長を見守り、次の段階への準備を進めることが重要である。

## 授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

○改善授業では活動の中で生徒たちがタブレット端末を使用して「編集」を行う場面を設定した。具体的には、「Apple Keynote」の共有機能を活用し、DやAはもちろん、グループの複数の生徒が同時に一つの資料を編集する活動を取り入れた。

→DとAのやり取りだけでなく、グループの他の生徒とも相談しながら、それぞれの担当部分を編集するようになった。

→編集をしながら友達の様子や作業の進み具合が見えるため、自然な意見交換やアイデアの共有が生まれた。

→学習を重ねることで、生徒だけで意見をまとめたり、編集のレイアウトを考えたりする姿が見られてきた。このように、タブレット端末を「編集」に用いたことで、生徒同士が主体的に関わり合いながら学ぶ姿勢を引き出すことができた。

